

きらきらぼし

令和5年4月発行 保健室

「きらきらぼし」は、嶺南地区の高校の保健室から皆さんにお届けする共通保健だよりです。違う学校のお友達とも、話題にしてくれるとうれしいです。

○ 突然ですが、皆さんに質問です。「学校生活で一番大切なことは何でしょう？」

もちろん、勉強でしょ

授業が一番大事

自分にとっては部活

友だち作りだよ

それぞれ、大事なこと、大切なことは違うかもしれませんが、でも、誰にとっても最も重要なことは一つだけ。

「安全で安心な学校生活をおくること」です。

学校では、様々な活動を行います。また、ひとりひとり、健康状況はまちまちで、生活環境も異なります。持病を抱えている人、寝不足で、たまたま体調が悪い人、朝ご飯を抜いてきてしまった人…などなど。

皆さんは、身体的には、人生で最も健康な時期と言えるかもしれませんが、卒業するまで、ケガも病気もなく過ごせる保証は残念ながらありません。しかし、学校は、様々な状況に備えて、対策を講じています。

命にかかわることがおきた場合の対応、外部から不審者が侵入した時の対応などはその一例です。

皆さんが、「安全で」「安心して」学校生活をおくることができるよう、備えています。

そして、その対策が万全に機能するために、皆さんにも協力してほしいことがあります。

お手柄高校生に感謝状見事な連携で「AED蘇生」

ごく普通の高校生とは思えないほどの迅速かつ冷静な判断と対処で行った「AEDによる心肺蘇生」。

貴重な命を救う事につながった

この日、藤原署長から感謝状が贈られたのは、同校に通う鳥丸彩紀さん、松井大さん、請盛艶さん、加藤夏稀さんと、生徒達が登下校の際に利用するJR南武線・久地駅の駅員、松澤一夫さんの5人。今秋の某日、下校時に久地駅構内で倒れている男性を発見した高校生たちは、まず駅員を呼びに行き、松澤さんが駅員業務として胸骨圧迫マッサージを開始。その間に、高校生が救命処置のための医療機器「AED」のある場所を探すために持っていたスマホを活用。検索機能などを使い、同駅にほど近いクリニックにAEDがある事を見つけ出し「ダッシュで取りに行きました」(高校生の一人)と、当時の様子を振り返る。

その後、現場を通りかかった医療従事者のサポートなどもあり、このAEDによる心肺蘇生は成功。通報で駆け付けた救急隊員への引継ぎも滞りなく完了し、男性は入院。現在は社会復帰を果たしているという。高津消防署ではこの一連の救命行動について「処置の迅速さ」に着目。倒れている男性の発見からAEDによる心肺蘇生までにかかった時間は「わずか8分」だったとみられており、藤原署長は「心肺停止の傷病者への早期の救命措置は、予後に効果があるため、(今回)高校生たちとのった行動は本当に適切で迅速」と咄嗟に見せた連携を高く評価。「大した事はない」と語る高校生たちに「逆にそれがすごい!」と褒め称えた。(神奈川県全域・東京多摩地域の地域情報紙タウンニュースより)

<https://www.townnews.co.jp/O202/2020/12/25/555891.html>

高校生の勇気ある行いが、人の命を救いました。これは、学校外での出来事ですが、学校内でも、誰かが突然、倒れて、意識を失うといったことが起こる可能性があります。そのとき、もし、先生がいなかったらどうしますか?先生に「AEDを持ってきて!」と言われたら、取りにいけますか?AEDの操作はできますか?新学期のスタートに、ぜひ、自分の学校のAEDはどこにあるのか、確認をしておきましょう。

本校のAED設置場所は

1. 職員室前廊下
2. 第1体育館出入り口
3. 第2体育館出入り口



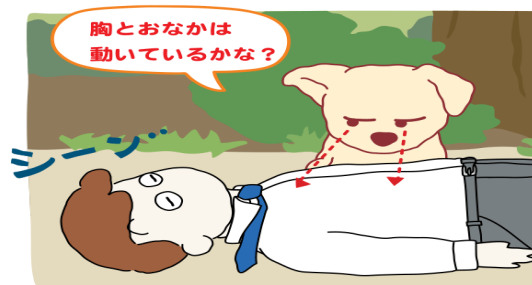
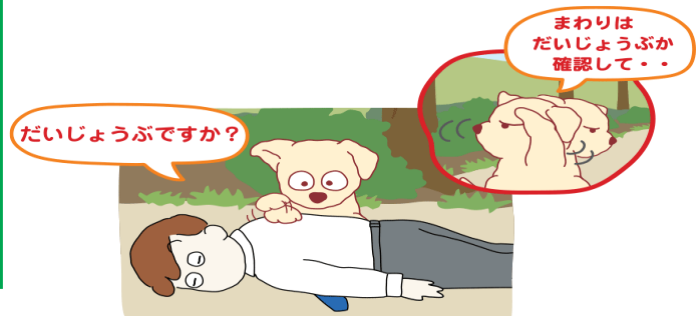
〈休み時間、放課後など、学校で先生がいないときに誰かが倒れた時の対応〉

1. 傷病者の耳もとで「大丈夫ですか」または「もしもし」と大声で呼びかけながら、肩を軽くたたき、反応があるかないかをみます。
2. 反応がなければ、大きな声で「誰かきて！ 人が倒れています！」と助けを求めます。
3. 助けがきたら、先生を呼びに行く人、AEDを取りに行く人、と役割を分担し、速やかに行動します。
 (救命措置としては、AED到着までに、気道の確保⇒呼吸の確認⇒人工呼吸⇒胸骨圧迫を開始します)

以下引用 <https://www.jhf.or.jp/check/aed/how/> 日本心臓財団・AEDで助かる命



HAL 大阪CGデザイン科作成



そこにAEDがあれば、そこに助けようとする人がいれば、助かる命があります。